

令和2年度学校関係者評価表

学校番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	総 合	A : よくできた C : 不十分だった	B : だいたいできた D : ほとんどできなかった
------	----	---------	----	-----	-----	-----	-------------------------	-------------------------------

今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画	評価	成果と課題	自己評価
1	広域通信制との差別化を図るとともに狭域通信制ならではの特色あるカリキュラムの設定と総合的教育力の拡充。	①スクーリング及びレポート内容の精査を行い、基礎学力の確実な定着と積極的な授業参加、主体的な学習習慣の定着を図る。 ②校内はもちろん、校外での生活指導も継続的に実践・強化し基本モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③幅広く多くの生徒が関わることができる魅力ある特別活動や校外スクーリングの提供により、さらに充実した学校生活を送る取り組みを行う。 ④社会適応能力の養成やビジネスマナー指導などにより、早い時期からの進路選択を促し、進学・就職ともに支援強化を図る。	B	①前年度の反省を活かし、従来の形式にとらわれず内容を変えていくことで、より生徒層に沿ったスクーリングやレポート指導ができた。LDや学習に苦手意識をもった生徒のために書き込み式のプリントを作成し、できる限り板書の工夫をした。 ②職員からの声掛けは実施できているが、従えない生徒や理解できない生徒がどうしても一定数存在するため、粘り強い声掛けが必要であると感じた。 ③コロナ禍により自粛を余儀なくされたため、評価なし。 ④総合学習や特別活動の時間でマナー指導や奉仕活動に取り組みさせたことで、意識付けを行わせることができた。また面接時に保護者とも本人の考えを共有し、スムーズな進路指導を行った。	
2	生徒一人ひとりの個性を伸ばさせ、さらにきめ細やかな対応を図る為の必要な教職員を配置する。	①生徒数の定員増に伴い、さらに増加が予想される多様な生徒（不登校・問題行動・発達障害等）への学習に対する動機づけや学びの意欲を喚起できる教員の増加とその養成を行う。 ②個別対応、部活動、キャリア教育、インターンシップなどの分野に十分に対応できる教員数の確保を行う。 ③教職員体制の組織化を推進し、より機能的集団にする。特に、外部研修においては関係団体からの講師を招聘して、多様な困難を有する生徒に対し支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。 ④未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、再履修・復学を促す活動に併せて学費の未入金分の通知や交渉をすすめて回収を図る取り組みを行う。	D	①職員数の増加はキラリ高校にとって大きな課題と位置づけられる。各校内では教師間で細かく連携し、多様な生徒への対応に努めた。4つの校舎の間ではまだまだ連携を取れているとはいえない。 ②個別対応に関しては多くの教員が取り組めた。キャリア教育、インターンシップなどの分野にはまだまだ課題が残る。専門的に携わる教員も必要と考える。 ③推進はあったが、まだまだ組織化できているとは言えない。細かな面において職員間での認識の違いがある。全体共有を推進することと、担当職員の中からリーダーシップをとれる者を育てたい。外部研修についてはコロナ禍も要因かもしれないが、ほとんど実施されなかった。 ④未履修・休学中の生徒・保護者に対し各担任・会場が一人ひとりに対して行動できていたと感じる。しかしながら不登校・家庭(生活)環境の面など教員の努力(行動)では中々対応できないことも多く成果としては課題も多い。	
3	技能連携教育施設（各スクーリング会場）のカリキュラム内容を整備し、通学タイプの充実を図る。	①通学タイプの全日スタイルを選択しやすいように、コース内容の再編を図り、より魅力ある内容の転機を目指す。 ②①を推進するために、各スクーリング会場の教員を増員する。 ③毎年増加している支援学級からの生徒に対応するための専門性を保持する教職員の採用および現況職員の能力の養成を図る。	C	①年度当初の再編を行うことにより、計画的な行動が取れた。習熟度別でのクラス分けでミスマッチを軽減することができた。生徒からの要望も踏まえ新コースの設立を設定した。 ②インターネットを活用し事前準備を行い、魅力ある授業をすることができた。会場によってだが、外部講師の先生にも協力してもらい質の高い授業ができた。 ③発達支援研究所による基礎研修を受けて、支援学級の生徒に対する専門的な考え方や指導の仕方が理解できた。校舎(会場)に1人は発達支援の専門員がいるとより良くなると思う。	
4	吉田本校の整備・充実	①週3日の平日スクーリング（ウイークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等、様々な活動を通じ高校生活の充実を図る。 ②引き続き図書室の蔵書を充実させるとともに、生徒の学習活動の中に読書習慣を定着させる活動を実践する。	B	①コロナ禍での自粛や制限を除き、各職員が生徒のことを考え、行動することができた。また、11月には待望の校外学習を実施することができた。過去数年間の積み重ねの結果、進路決定率が格段に上がった。 ②図書室の利用は「静かに勉強をしたい」「空いている時間を落ち着いて過ごしたい」という目的が大半のため、蔵書の充実や読書週間の定着は感じられなかった。	
5	I C T教育及び、校務システムの整備事業	①インターネット授業配信を充実させ、レポート(添削指導)のデジタル化への移行準備を推進する。 ②校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図る為、システムの整備・拡充をはかる。	C	①活動自体は積極的に行っていた。機材の問題や相手側の接続問題など、浮き彫りになった課題を解決していくべきと感じた。 ②整備・拡充自体を図ってはいたが、効率化しているとは感じられなかった。	